

皆さん、おはようございます。

今日から2学期が始まります。3年ぶりに行動制限のない36日間の夏休みでした。皆さんにとって、どのような夏休みだったでしょうか。

さて、今日の始業式では、以下の内容をお話します。
先ほどの生徒の皆さんからの報告や表彰がありました。改めて、①夏休み中の皆さんの活躍を振り返ります。そして、②現在の本校が目指しているものを確認し、最後に、③新型コロナへの対応、について皆さんにお願いをします。

今日の式辞の内容

①夏休み中の生徒の活躍

②現在の本校が目指しているもの

③新型コロナ感染拡大への対応

それでは、1つ目の夏休み中の生徒の活躍について、ふり返ってみましょう。皆さんの活躍には、本校始まって以来といった目を見張るものがありました。非常にたくさんありましたので、少し長くなるかもしれません。

中学から見ていきます。

まずは、将棋です。山形県天童市で行われた「全国中学生選抜将棋選手権大会」で、中学3年の石原橙真（いしはら とうま）君が、堂々の全国第3位に輝きました。とても素晴らしい成果

です。

中学 将棋



8月2日(火)～4日(木)、山形県天童市
「第43回全国中学生選抜将棋選手権大会」
? 中学3年の石原橙真君が、堂々の3位入賞

また、東京都八王子市で行われた「関東中学生テニス選手権大会」では、団体戦で8年連続出場と記録を更新しました。また、個人戦ダブルスの部では、3年生の神田瑞稀（かんだ みずき）さんと前田歩美（まえだ あゆみ）さんのペアが、1回戦を突破し、関東でベスト16入りを果たしました。

中学 女子テニス



東京都八王子市
「関東中学生テニス選手権大会」
? 団体戦8年連続出場
中学3年の神田瑞稀・前田歩美が、ベスト16

続いて、立教大学を会場に開催された「全国中学ディベート選手権（ディベート甲子園）」に関東甲信越地区代表として初出場を果たしました。それだけでなく、全国初出場で予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進出しました。今大会で、日本語ディベートの世界に、佐附中の名が知れ渡りました。

中学

日本語ディベート



中学の部 予選リーグ

対戦相手	勝敗	得点	失点	順位
山形県立第一中学校(山形県)	○	1	0	1位
山形県立第二中学校(山形県)	○	4	1	2位
山形県立第三中学校(山形県)	○	5	0	3位

対戦相手	勝敗	得点	失点	順位
山形県立第四中学校(山形県)	○	3	0	1位
山形県立第五中学校(山形県)	○	5	0	2位
山形県立第六中学校(山形県)	○	1	0	3位

「全国中学ディベート選手権(ディベート甲子園)」

？ 関東甲信越代表として、初出場

予選リーグ突破、決勝トーナメントに進出

また、ラグビー部の女子も、初めて、菅平で行われた「オープンカップ」への初出場を果たしました。これは、創部以来、初めての快挙ですが、それにとどまらず、全国の強豪チームと対戦し、トライを奪う活躍を見せてくれました。

中学

ラグビー部(女子)



菅平での「オープンカップ」(全国大会)初出場

？ 3試合対戦し、強豪チームからトライを奪うなど、大健闘

「栃木県吹奏楽コンクール」に参加した吹奏楽部が、数年ぶりに、金賞を受賞したこともうれしいニュースでした。

中学

吹奏楽部



曲目は、福島弘和
交響詩曲「西遊記」

部長の尾花彩葉さん(中3-3)、
副部長の今井里歩さん(中3-3)

7月29日(金)、宇都宮市文化会館

「第64回 栃木県吹奏楽コンクール」の中学校の部 B部門。

本校は、出場86校の中で、念願の「金賞」を受賞

次は、高校生の活躍です。

まず、愛媛県で行われたインターハイに出場したボート部の活躍は、栃木県民全体から賞賛の声が上がりました。

女子ダブルスカルに出場した藤倉望妃（ふじくら みき）さんと堀越紅羽（ほりこし くれあ）さんのペアが、全国3位という金字塔を打ち立てました。これは、栃木県の高校ボート部70年の歴史が始まって以来の快挙で、新聞紙上やとちぎテレビでも紹介されました。

高校

ボート部



8月14日(日)、愛媛県今治市の「玉川湖ボートコース」
インターハイ・ボート競技大会

女子ダブルスカル(藤倉望妃・堀越紅羽)「全国第3位」

男子シングルスカルの青木瑛久（あおき てるひさ）君と、女子シングルスカルの藤倉麻妃（ふじくら まき）さんも「準々

決勝」に進出する活躍を見せてくれました。藤倉望妃さんと藤倉麻妃さん、堀越紅羽さん、そして、顧問の増田萌先生は、10月から行われる「とちぎ国体」の選手としても活躍が期待されています。

高校 ポート部



8月13日(土)

女子シングルスカル(藤倉麻妃) ? 「順々決勝進出」

男子シングルスカル(青木瑛久) ? 「順々決勝進出」

同じくインターハイには、陸上部から、男子100mと4×100mリレーに出場しました。入賞には届きませんでしたが、それぞれのベストタイムに迫る記録で、全国の舞台で力を発揮してくれました。

なお、1年生の若菜敬（わかな けい）君は、「とちぎ国体」において、少年男子B 100mと共通男子4×100mリレーの栃木県代表に内定しました。こちらも、国体での活躍が期待されています。

高校 陸上部



8月3～7日、
インターハイ・香川県鳴門市

男子100m(小野君)、
4×100mリレー(熊倉君、小野君、須藤君、若菜君)

次に、文化部関係の活躍です。

囲碁将棋部の竹熊柊（たけくま しゅう）君が、福岡市で行われた将棋の「竜王戦」で見事、準優勝に輝きました。竜王戦は、高校生の将棋の大会では、最高峰のタイトル戦であり、これを目標に全国の高校生棋士がしのぎを削ってきました。審査委員長は、あの「藤井聡太竜王」です。藤井竜王から直接、お褒めの言葉をいただいたそうです。

また、全国高校総合文化祭の将棋部門でも、竹熊君、荒川君、渡部君の3名によるチームは、団体戦で優勝チームと対戦して僅差で敗れはしましたが、佐野高校の強さを全国に轟かせました。



一方、全国高校総合文化祭の弁論部門では、本県代表として出場した若林仁瑛（わかばやし のぶあき）君が全国8位となる「優良賞」を受賞しました。素晴らしい弁論が会場に響きました。

高校 弁論



全国高校総合文化祭(東京大会)の弁論部門
若林仁瑛「優良賞」(全国8位)

同じく科学部も全国総合文化祭自然科学部門で、栃木県代表として堂々とした発表を行いました。

高校 科学部



全国高校総合文化祭(東京大会)の自然科学部門
「栃木県産有尾目の保全に向けてⅢ」

また、吹奏楽部は「栃木県吹奏楽コンクール」に参加し、銀賞を獲得しました。私も実際に素晴らしい演奏を聴きました。価値のある「銀賞」だと思います。

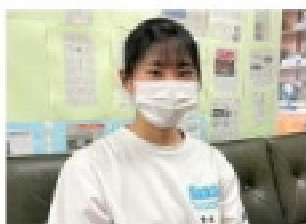
高校 吹奏楽部



8月6日(土)、宇都宮市文化会館
「第64回 栃木県吹奏楽コンクール」の高校の部
「銀賞」を受賞

それらに加えて、「ひろしまジュニア国際フォーラム」に参加した2年生の青木藍花さん、「トビタテ留学ジャパン」に参加した2年生の細井光希さんの活躍も、私たちをインスパイアしてくれました。

高校



「ひろしまジュニア国際フォーラム」
青木藍花



「トビタテ留学ジャパン」
細井光希

さらに、このような公式な大会や海外での体験だけでなく、夏休み中は、中高ともに、様々なフィールドワークが行なわれました。

中学3年生の希望者約70名は、8月24日に、バスで筑波のJAXAとJICAを訪問しました。

中学

「シンカゼミ」フィールドワーク



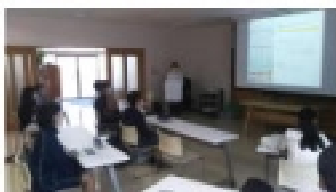
JICA

JAXA

高校 1， 2 年生の希望者も、宮城県南三陸町をフィールドワークしました。「3. 1 1」から十年以上が経ったいま、被災時の様子と町の「いま」を見聞きすることで、各自がそれぞれの考えを深めてきました。

高校

「宮城県南三陸町フィールドワーク」



また、東武鉄道とのコラボ企画である「アップサイクル TOCHIGI」の取組で、パートナーである東京都の岩倉高校と 2 回の交流会が行なわれました。7 月 2 5 日は本校で、8 月 2 5 日（昨日）は、岩倉高校を訪問して行いました。私も昨日は、岩倉高校に同行しましたが、高校生が考えた新しい旅行の提案を、実際に、スペースを借り切って、臨時列車を 1 1 月中に走らせることが決まりました。これだけ大規模なプロジェクト

に関われる高校生は、なんと幸せなことだろうと思いました。

高校 「アップサイクルTOCHIGI」



8月25日、岩倉高校にて

8月18日には、本校の卒業生の大学生55名が来校し、希望する高校1、2年生と懇談会を実施し、大学での学びなどについて、お話を伺いました。卒業生は、佐高を愛する気持ちが強く、これだけたくさん来てくれるというのは、おそらく他校では例がないと思います。

高校 「卒業生との懇談会」(8月18日)



卒業生55名が来校

ざっと、思いつく限りの活動を紹介しましたが、生徒がこれだけ活発に活動している学校は、少なくとも本県では、佐野高校・同附属中をおいて、他にはありません。

さて、8月11日には、佐附中の「学校説明会」、そして、8月19日には、3年ぶりとなる佐野高校の「一日体験学習」が開催されました。



そこでは、メイキングルールプロジェクト、ももクロプロジェクト、sano.G クラブなど、「本校ならではの活動」について、生徒たちが自分の言葉で発表しました。

本校の素晴らしさを知ってもらうことは、なかなか難しいと感じていましたが、ここ数年で飛躍的にシンカした皆さんの姿を小学生や中学生、保護者に直接伝えることが出来たことは、この夏休み中の大きな成果だと考えています。来年は多くの児童・生徒が、受検してくれると期待しています。

この夏休みは、本校122年の歴史の中でも、特別に記念すべきものであったと思っています。そのような年に、立ち会うことが出来たことを、心から嬉しく思っています。

次は、2学期に向けて、「現在の本校が目指しているもの」についてお話したいと思います。

本校は、SGH 終了後、Sano グローカル構想を進めていますが、学校のパンフレットには、次のように書かれています。

「生徒・保護者・教職員・地域にとって、幸せな学校を目指しています。」実は、これが本校が目指している目標なのです。



ところで、皆さんにとって、「幸せな学校」「入学してよかったと思える学校」とは、どんな学校でしょうか。

当然、人によって、価値観は違いますが、

本校では、大きく2つのことが重要であると考えています。

1つ目は、「あなたがあなた自身でいられる学校」です。

例えば、授業中、自分の考えを普通に発言することができ、それをみんなが認めてくれます。一人一人が違う考えを持っていることは当たり前であり、その中で一緒に学校生活をおくることを大切にしています。

また、今年度から、男女の別なく選択できるよう、第三の制

服が生徒の手によって導入されたこと、陽だまりカフェが開催できたこと、校則が見直されていることなど、本校では、生徒と先生が協力し、「あなたがあなた自身でいられる学校」であることを目指しています。皆さんからは様々なアイデアや提案等がありますが、それをやってみるかどうかは、この方針に合っているかどうかを大きな判断基準にしています。

「幸せな学校」とは？

1つ目

「あなたが
あなた自身でいられる学校」

2つ目は、「誰もが当たり前のようにチャレンジできる学校」です。

「幸せな学校」とは？

2つ目

「誰もが
当たり前のように
チャレンジできる学校」

実は、皆さんは、すでに実践しています。本校は、誰もが当たり前のように、いろいろなチャレンジをしており、毎日のように、自分は今、こんなことにチャレンジしている、と校長室

に来てくれています。是非、夏休み中の皆さんのチャレンジについても、校長室に伝えに来て欲しいと思っています。
本校のHPでも、紹介できるものは紹介したいと思います。
また、そうした皆さんを称える「表彰カード」を特注しました。
HPは毎日2000アクセス以上の閲覧があり、周囲からも注目されています。

チャレンジすることが大切なのは、そこから、新しい自分の可能性が見えてくるからです。むしろ、失敗することから学ぶことの方が多いと思います。

以上、本校が目指している「幸せな学校」は、「あなたがあなた自身でいられる学校」であり、「誰もが当たり前のようにチャレンジできる学校」です。2学期が始まるにあたり、改めて、本校が目指しているもの、そして、本校はそれを実行する覚悟を持っていることを知っておいて欲しいと思っています。

「幸せな学校」とは？

1つ目

「あなたが
あなた自身でいられる学校」

2つ目

「誰もが
当たり前のように
チャレンジできる学校」

3つ目のお話は、新型コロナへの対応についてです。

ちょうど1年前は、コロナの第5波が押し寄せており、緊急事態宣言の下、時差登校、短縮授業で2学期が始まりました。しかし、その当時の感染者数がどのくらいだったか覚えてますか。多い時で200名程度で、現在の2000名を超える感染者数

と比べると、実に 10 分の一の感染者数でした。そのことを考えると、時間とともに、コロナと共存するステージになったことを実感しています。

しかし、一方で、新型コロナは、常に足元に忍び寄ってきています。いつだれが感染してもおかしくないことはもちろん、いつどこで感染したのかもわからない状況が日常になってきています。そんな中で、私たちができることと言えば、やはり、当り前の感染症対策を、当り前のようにやり続けることしかないのではないかと思います。

「感染拡大への対応」について

私たちができることと言えば、

当り前の感染症対策を
(マスク・距離・換気)

当り前のようにやり続けることしかない

昨日まで、一緒に勉強していた生徒や先生が、今日、陽性であることがわかった、ということは、普通にあること、と想定する必要があります。そんな時でも、マスクをし、距離を置き、換気がしっかりしていれば、そこから感染が広がるリスクを抑え込むことは可能です。

これから、旭城祭の準備が始まりますが、最高の思い出になるよう、万全の体制で、感染防止対策にも、全力を上げて欲しいと思います。

最後に一つ、一番大切なことを皆さんに伝えます。全てのことに優先されるのは、ここにいる皆さんの健康であり、皆さんの命です。体を大切に、そして、命を大切にしてください。

特に、夏休み明けは不安なことや心配なことを抱えていることが多いと思います。そんな時は、担任や養護教諭などに相談してみてください。その他、話しやすい先生なら誰でも構いません。校長室にふらっと来てくれても構いません。話を聞いてもらうだけでも、気が楽になることがあるのではないかと思います。

「一番大切なこと」

- 全てのことに優先されるのは、皆さんの健康であり、命である。

中学生、高校生の皆さんが、実り多い日々を送り、様々なチャレンジをすることを通して、さらに一步、成長する2学期となることを願って、2学期始業式の式辞とします。